



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2013年1月号

### 「主題」

- 国際会長 : 世を照らす光になろう  
 アジア地域会長 : 歳月はY'sをワイズ(賢者)にする  
 西日本区理事 : 先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で  
 中部部長 : 前へ! 声を掛け合い  
 プラザクラブ会長 : 明日に希望を クラブに活力を  
 強調月間・ポイント:【IBC・DBC・IBC・DBCは交流が広がるツールです。ワイズの楽しさを最大限感ずるために無締結クラブをなくしましょう。】

### 1月例会および今後の予定案内

#### 【1月第1例会】

日時: 1月10日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室  
 内容: 「中部部長と懇談会」

#### 【1月第2例会】

日時: 1月24日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室  
 内容: 次月例会の打ち合わせ  
 出席義務者: 役員(高田・榎田・常盤)  
 2月担当者(榎田・小澤)  
 3月担当者(万福寺・常盤)

#### 【今後の予定】

1. 南山クラブ・リーダーと共に新年会  
 日時: 1月13日(日)・19:00-  
 場所: 八事GOKURAKU亭  
 中京大学正面 TEL. 052(837)1333  
 費用: 4000円/人  
 ◆南山クラブよりお誘いがありました。
2. 2月第1例会  
 日時: 2月14日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室
3. 2月第2例会  
 日時: 2月28日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室
4. 3月第1例会  
 日時: 3月14日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室

### 12月例会および例会外活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者								
		1	2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
直前会長	大島 孝三郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副会長	小澤 幸男	○				○				
書記	榎田 守隆	○	○			○	○	○		
	後藤 猛	○				○	○	○		
	島崎 正剛	○				○	○			
	鈴木 誉三	○				○	○			
会長	高田 廣	○	○	○	○					
会計	常盤 真理子	○	○							
連絡主事	万福寺 昭美	○								
ゲスト	分部 春代	○								
	東田 美保	○								
諸活動	①西日本区大会実行委員会 12/7									
	②陶芸教室 12/8									
	③老人ホーム音楽慰問 12/16									
	④クリスマスキャロル 12/23									
出席率(%)										100.0
クラブアアンド(円)・当月/累計										17000
2月号寄稿者・万福寺 (400字詰原稿用紙4-5枚程度)										
3月号・小澤/4月号・鈴木/4月号・鈴木										

【2012-13年度クラブ役員】大島孝三郎・メール委員/小澤幸男・Yサユース/榎田守隆・広報事業。ブリテン担当。HP委員/後藤猛・副会計/島崎正剛・EMC。交流/鈴木誉三・会計監査。地域奉仕。環境/高田廣・ファンド/万福寺昭美・連絡主事  
 IBC=International Brother Clubs(国際兄弟クラブ) DBC=Domestic Brother Clubs(国内兄弟クラブ)

## 12月第1例会(クリスマス例会)報告

日時:12月13日(木)・18:30-20:30

場所:ケンポー



プラザクラブのクリスマス例会は13日、洋風居酒屋ケンポーでて行われた。ゲストの東田、分部さんらプレゼント交換の品物を持参した11人が集まり、6時半会長の乾杯を皮切りに会が始まった。酒の肴は次々に運ばれる美味しい料理と、16日衆院選、12月に亡くなった勘三郎や小沢昭一氏にトニー・ザイラーの話など豊富である。あみだくじによるプレゼントの交換品はワインや手袋、ダブって買った本という不真面目なものもある。明暗を分けたそれぞれの品物を持ち、ほろ酔い気分で8時半散会した。

## 12月第2例会報告

日時:12月27日(木)

場所:名古屋 YMCA 会議室

### 1. 連絡事項・高田

#### (1) 1月第1例会(新年例会)

荒川中部部長が公式訪問される。

#### (2) 次期中部広報主査について

次期中部部長平口さんよりプラザから広報主査の選出要請があり、大島さん(承諾)に願います。

#### (3) 次期役員案

会長・島崎 副会長・後藤 会計・鈴木 書記・榎田

### 2. 南山クラブ「リーダーと共に新年会」・榎田

(詳細1面)

### 3. YMCA 休館

12月30日-1月4日

## 西日本区大会実行委員会報告

第16回西日本区大会の第13回実行委員会が12月7日(金)19:00~21:00名古屋YMCAにて行われた。若松芳弘実行委員長の挨拶に始まり、西日本区事務所職員の北村久美子さんと金沢クラブ副会長の澁谷洋太郎さんを含め20名程の出席者で真剣に討議された。西

日本区大会の案内書は2013年1月12日に発送される予定です。これにより大会全体の骨格が示され、名古屋能楽堂とウエスティンナゴヤキャッスルホテルの2つの会場と地下鉄の駅との位置関係が1枚の地図でわかり、イメージされやすくなった。他には各委員会で内容の検討が着実に進んでいるようです。プラザクラブからは鈴木誉三会場委員長と大島孝三郎広報委員が出席しました。

(大島 孝三郎)

## 陶芸教室 加飾と施釉編



12月8日、都合が悪くて不参加の東海長谷川さんを除き、グランパスの服部、荒川さん、わがクラブの大島、後藤、島崎さんと私に、前回アシスタントでお世話になった森さんの7人が、佐渡山工房に集まった。

10時から陶芸教室第2回目の絵付けが始まる。10月27日に作った器物が素焼きを終えて作業台に並べてある。佐渡山先生から、まず素焼きをした素地の口縁や高台(器の底にある丸い輪の形をした台)のザラつき、土の切り口や削り跡などの突起を滑らかにするために、サンドペーパーを掛ける、との指示が出る。次は本焼きの時、釉薬(焼き物の表面を覆うガラス質の薄い層のうわぐすり)が窯の棚板に溶着しないよう、高台や足を付けたまわりに、撥水剤を筆で塗る作業である。

お昼になった。奥さんの手作り弁当、コンビニのおにぎりを頬張りながら今までの出来栄の自賛、言い訳を聞くのも面白い。

昼からは作品の良し悪しを決める絵付け、釉薬掛けである。鉄釉(鉄分を含む絵具)で模様や絵などを描いた後、釉薬を掛けるが、用意してある釉薬は透明釉、緑色の織部、黄色の黄瀬戸の3種類、模様や絵を描いた個所は透明釉を使わないと濃い色に負けてしまう。掛ける順番は透明釉に織部か黄瀬戸、透明釉に重なる部分は多少薄くなるが、基本的に掛ける個所は分けた方がいい。主な掛け方は、釉薬のバケツに直接入れる「浸し掛け」、時間は3秒から5秒、ひしゃくに取った釉薬を流して塗る「流し掛け」がある。先生のやり方を参考に恐る恐る1,2,3と数えながら釉薬に付ける。

厄介なのは付けた直後わずかに触れても釉薬が剥がれること、特に口縁の外側で見にくいところは要注意。取りあえず全員作業を終えたが、きょう欠席の長谷川さんの作品である。「大皿ともう一つ何か作ったようだ。どなたでも結構ですので仕上げてください」との伝言に、先生は「2日前に来た友達が『作った覚えがない』と言いながら似たような大皿に施釉しました」と話し「ちっと淋しいな」と模様を足した。

きょうの作業はこれで終了、あとは本焼きである。予定では16日の週に出来そう、とのこと。もし予定通りであれば、みんなの作品を年内にYMCAまで届けることを約束して解散した

「仕上がったので取りに来て」の連絡があり、21日現地に8人が集まる。既に窯から出して作業台に並べてある。さすが先生と同僚たちの作品は、自動車会社のデザイン部OBだけに出来が違う。わが仲間たちと経験年数は同じらしいが、勝負にならない。ましてわれら初心者の作品は・・・頑張ろう。その中で「これが良い」と先生に褒められたのが、荒川さんの抹茶茶碗である。みんなで手分けして希硫酸に1時間ほど浸して水で洗う。ワイズ分は新聞紙にくるんで持ち帰る。なお、素焼きのまま30年ほど放置した器物は、表面が目詰まりしているらしく釉薬ののりが悪かった。



22日10時、YMCAの会議室テーブルに作品を並べる。それぞれが訪れ自分のものを紙袋に詰めて持ち帰り、今回の陶芸教室はすべて終了した。

## 老人ホームでクリスマス音楽会

小澤さん宅へ11時半に大島、後藤、鈴木、高田さんと Hammond オルガン演奏の鈴木先生、ギター弾き語りの稲場禮子さんが集合した。早速、オルガンや機材を車に載せて食事を済ませ、会場の老人ホームアミュー高辻に到着する。昼食を終えたばかりのみなさんは、われわれが訪れる3度目のクリスマス会を楽しみにされている、との職員のお話運び込むオルガンも軽くなったようだ。

鈴木先生の演奏で1曲目は、昭和30年代に公開されたオードリー・ヘプバーン主演映画「昼下がりの情事」のテーマ曲「魅惑のワルツ」、続いて童謡の「ペチカ」、

「雪やこんこん」など、このごろ聴きなれない Hammond オルガンの音が会場に響き渡る。入居されている方々は、ときに手拍子を打ちながら楽しそうである。次は、毎回お世話になっている 想念寺子ども合唱団「ぼこ・あ・ぼこ」が、「母さんの歌」など 想念寺の奥さん演奏で披露される。配られた歌詞カードを片手に持ち、指揮者よろしく手を振りながら歌う人もいる。

小澤さん独演会は10月から習い始めたという「ラビアンローズ」の演奏、この曲は「麗しのサブリナ」で流れたもので、よほどヘプバーンがお好きのようだ。稲場さんはギターの弾き語り「花は咲く」、アカペラで「よいとまけの唄」を力強く歌い上げる。

再度子どもたちが登場してクリスマスソングをメドレーで合唱して、最後はいつも通り「燃えよドラゴンズ」、今回は板東英二が歌った昭和49年度版の歌詞をみんなで合唱する。

♪一番高木が壘に出て 二番谷木が送りバンド 三番井上タイムリー 四番マーチンホームラン いいぞがんばれ ドラゴンズ 燃えよドラゴンズ♪



## クリスマスキャロル



第10回「クリスマスキャロル in JR セントラルタワーズ」に参加した。23日午後4時から機材運び、横断幕・のぼりの組み立てを手伝い、6時の開演からは聖歌隊後方に置かれた横断幕を保持する役目である。両端のポールに後藤・鈴木と 榎田・大島、真ん中に島崎さんが支える。後ろから突然強く吹く寒風に、こご

えた体が揺れる。安井正規さんの電子オルガンがビルの谷間に響く。サンタクロースの衣装を身に着けた116人の聖歌隊は「もろびとこぞりて」など5曲を熱唱後、足を止めて聞き入っていた人たちと一緒に3曲を歌い上げた。7時からの2回目は旗持ち、歌詞集配布の役目を他クラブと交代した。後片付けを済ませ、毎年お決まりの飲み会に向かった。

## 聖書の言葉

【彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」そこで、ヨセフは立って、夜のうち幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、私の子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。(マタイの福音書 2:13-15)】

【2010年暮れ、大学を卒業しても職に付けず、行商をして生計を立てていた青年が、警察に商売道具を没収され抗議の投身自殺したことでデモが起こり暴動に発展、治安部隊との衝突で多数の市民が死亡した。翌年1月、23年間続いたベンアリ政権が崩壊した。いわゆるチュニジアの「ジャスミン革命」に触発された大衆の反政府デモが、アラブ諸国に波及する。エジプトは2012年1月、ムバラク退陣を要求する大規模デモが繰り返され、2月、副大統領は国営テレビで全権を軍最高評議会に委譲すると発表、ここに29年続いたムバラク政権は崩壊する。2012年6月、ムスリム同胞団(1928年、西洋からの独立とイスラム文化の復興を掲げてエジプトで結成された(Wikipedia))のムハンマド・モルシ大統領が誕生した。2年前、ともに十字架と三日月のプラカードを掲げてデモに参加したキリストとイスラムの両教徒が対立している。『原理主義に反対するリベラル派や国民の1割を占めるキリスト教徒はイスラム勢力主導の憲法案に反対している。憲法案は約230の条文で構成。この中で立法はイスラム法(シャーリア)に基づくとの原則が引き継がれた。(12月8日付日経新聞)』国民の1割を占めるキリスト教徒とは、1世紀に成立した原始キリスト教のコプト教徒を指す。】

【ユダヤを支配していたヘロデ大王の幼児殺害命令を逃れるため、ヨセフ親子3人はエジプトの地を転々とする。3年半後ヘロデが死ぬとイスラエルに帰り、ナザレに住んだ、という言い伝えがある。現代では家族が木陰で休息した場所を「マリアの木」、イエスの足型が付いた石、身を寄せた洞窟の中に教会が建てられた、などと伝えられた所が観光地である。当時のエジプト人は幼子のイエスを主と認めた世界で最初にキリスト

教徒になった、と信じている。もう一つの伝説は、『エジプトで最初にキリスト教を伝えたのは福音書著者マルコで、西暦41年から44年の間だとされ、十数年後にアレキサンドリアで殉教し、初代アレキサンドリア総主教に祭られている。』のがコプト教の起源とある。】

## Zoom・雑考

2009.03.04

雑考・新聞、雑誌、テレビなどを読んだり見たり、あるいは日常生活の時々ふと思うこと、感ずることがある。そのほとんどは時が過ぎるとともに忘れてしまいが、澱(おり)のように残り、ふとまた浮き上がることがある。そんな些細な「思い」を文字に残しておくのも一興かと10分程度でパソコンに打ち込むことにした。表題は系統立っていない考察や考証、雑な考え、の意味で「雑考」とした。したがって文章の良し悪しはまったく無視の「筆の向くまま」のため、読み返す段になって苦勞するかもしれない。

2009.08.26

スキー・トニー・ザイラーの死亡記事が今日の朝刊に載った。1956年イタリアのボルチーナダンペットで開催された冬季オリンピックのアルペンスキー三冠王を獲得した、オーストリアの選手である。中学からおやじの同僚だった人の実家に1週間ほど泊まってスキーをしていた。野尻湖の端の小さな山を越えた寒村だった。畑の斜面を二三百メートルほど滑るだけだったが、同じ村の高校生たちと一緒に遊んだ。赤倉スキー場までラッセルしながら、2時間かけて行ったこともある。大学時代、名古屋駅の構内放送でトニー・ザイラー主演映画「白銀は招くよ」のテーマ曲に送られ、夜行列車の鈍行で1人野沢に向かった思い出が甦る。

2009.11.06

サギ・結婚詐欺は男が女を騙して金品を貢がせる、のが通り相場だった。被害者の中には、相手が逮捕されても「いつかはわたしのところに戻ってくる」と未練一杯の言葉を吐かせる、あっぱれな奴もいる。今どきは、34歳の女が複数の男を騙してカネを奪って詐欺罪で捕らわれ、かつ6人を殺した疑いがあるとかで、世間を賑わせている。きょうのテレビは、鳥取の35歳の女が詐欺で逮捕され、3人の男性を殺害した疑いがあると報道している。途中から見たため、土地も年齢も人数も違う、また遠くまで出かけて殺したもんだ、と漠然と思っていたら別の事件だった。この頃は女が男を騙し金品を貢がせ、カネがなくなったら殺すとは、なんと殺伐な世になったのだろう。付け鼻をしてアメリカ二世を名乗り、空港の雑踏を録音して電話のとき再生、パイロットの格好をして現れる、なんて初老の詐欺師が昔いた。もう洒落が通じない世の中なのか。